

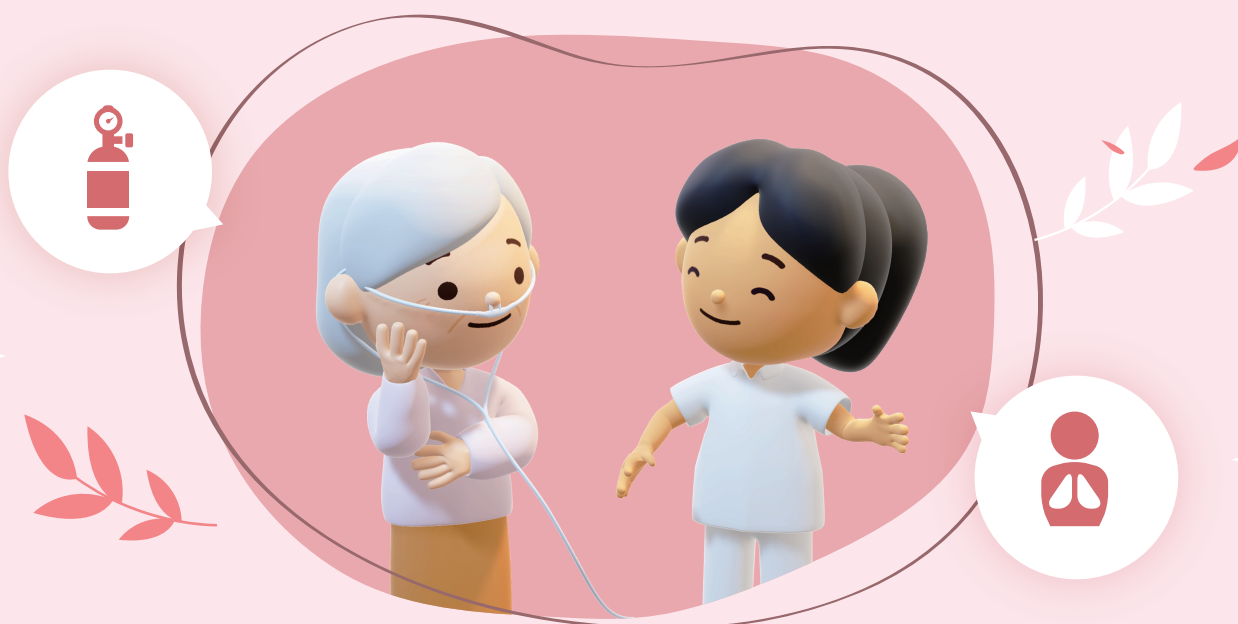


第35回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会

コーヒーブレイクセミナー1

明日からの実践が変わる！

在宅酸素療法患者への セルフマネジメント支援



2025.10.24 **金** 15:50 - 16:30

 **朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター**
B会場 2F メインホール A
〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号

座長

岡本 美貴 先生

宮崎善仁会病院
呼吸器疾患看護認定看護師

演者

竹川 幸恵 先生

大阪はびきの医療センター
慢性疾患看護専門看護師

共催：第35回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 / 星医療酸器グループ

コーヒーブレイクセミナー1

明日からの実践が変わる！

在宅酸素療法患者へのセルフマネジメント支援

地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター
竹川 幸恵

在宅酸素療法（home oxygen therapy: HOT）は、低酸素血症の改善や呼吸困難の軽減を通じて、日常生活動作の維持や趣味・社会活動の継続を可能にし、クオリティ・オブ・ライフ（quality of life: QOL）の向上を目的とする。その実現には、患者によるセルフマネジメント行動が不可欠である。

「呼吸リハビリテーションマニュアル—患者教育の考え方と実際（2007）」や「呼吸リハビリテーションに関するステートメント（2018）」においても、セルフマネジメント教育の重要性が示されており、当初から医療者がそのスキルを学ぶ機会は増加していた。さらに2022年に上梓された「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル」では、セルフマネジメント教育を核に、調整、意思決定支援、システム構築、専門職育成を柱とする「統合されたセルフマネジメント支援」の重要性と介入スキルが示された。しかし現場では、医療者がHOTにネガティブな思いを抱く患者との関わりに戸惑いや困難さを感じる場面も多く、結果として患者が本来の目的であるQOL向上に至らないことも少なくない。

では、患者が緩徐に進行する病いと共にHOTを生活に取り入れ、望む暮らしを実現するには、どのような支援が必要なのだろうか。アドヒアランスの向上は不可欠であり、そのためには、病状やHOTに対する患者の理解や価値観、生活への思いを把握し、パートナーシップに基づく誠実な態度でテーラーメイドな支援を行う必要がある。また、病状変化に応じた精神的支援をはじめ、酸素流量の調整や希望する生活に即した酸素機器・デバイスの選択、環境調整などが求められる。

本セミナーでは、HOT導入から在宅での継続支援までを見据えたセルフマネジメント支援の実践について概説する。明日からの看護実践に役立てていただければ幸いである。



ほっと
いきいき Diary

在宅酸素療法施行中の
患者様向け療養日誌を
リニューアル！



星医療酸器グループ

URL <http://www.hosi.co.jp>

